

**[成果情報名]イチゴ「ゆめのか」の頂花房着果数と収量および第1次腋花房収穫開始日**

**[要約]**イチゴ「ゆめのか」の高設暗黒低温処理栽培では、頂花房に11果～19果着果させると収量は同等となるが、着果数が少ないほど1果重は重くなり、第1次腋花房収穫開始時期は早くなる。頂花房の着果数は11果が適当である。

**[キーワード]**イチゴ、ゆめのか、高設暗黒低温処理栽培、頂花房着果数

**[担当]**長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

**[代表連絡先]**電話（代表）0957-26-3330

**[区分]**野菜

**[分類]**指導

**[作成年度]**2017年度

---

**[背景・ねらい]**

イチゴ「ゆめのか」暗黒低温処理栽培では、頂花房と第1次腋花房間が収穫の谷間となる中休みの発生が課題となっている。その要因の一つとして、「ゆめのか」は大果系の品種であることから着果負担が大きく、厳寒期の草勢が低下することが考えられる。

そこで、高設栽培における頂花房の着果数が収量および第1次腋花房収穫開始日に及ぼす影響について検討する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 総収量は、頂花房着果数による差はない。年内収量および2月末までの早期収量は、11果、15果および19果は同等となるが、7果は少ない傾向となる（表1）。
2. 商品果率は、着果数による違いは見られない。平均1果重および商品果平均1果重は、着果数が少ないほど重い傾向となり、19果に比べ7果および11果は重く、15果は同等となる（表1）。
3. 頂花房頂果平均収穫開始日は、着果数による違いは見られないが、第1次腋花房は、着果数が少ないほど早い傾向となる（表2）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 8月26日に暗黒低温処理を開始し、各年9月10日に処理を終了、2014年、2015年は9月11日に、2016年は9月12日に長崎県型高施設に株間20cm、2条千鳥植え（700株/a）で定植し、加温（7℃設定）、電照、培地加温（16℃設定）の条件で試験を行い、各年翌年の4月30日に収穫を終了した。
2. 第1次腋花房は株当たり13果程度、第2次腋花房以降は果梗枝当たり4～5果に摘果した。

## [具体的データ]

### 【試験区の構成】

実施年度	頂花房着果数			
	7果	11果	15果	19果
	2014～2015		2014～2016	

表1 「ゆめのか」暗黒低温処理栽培における頂花房着果数と収量

試験年次	頂花房着果数	総収量 (kg/a)	うち		商品果率 <sup>y</sup> (重量比%)	平均1果重 <sup>x</sup> (g/果)	商品果平均 1果重 <sup>w</sup> (g/果)
			年内収量 (kg/a)	早期収量 <sup>z</sup> (kg/a)			
2014	7果	638 ns <sup>v</sup>	138 b	216 b	95	21.3 a	21.5 a
	11果	675	158 a	244 ab	94	20.5 a	20.8 ab
	15果	610	149 ab	256 ab	94	19.9 ab	20.4 bc
	19果	629	149 ab	295 a	94	18.6 b	19.1 c
2015	7果	532 ns	134 ns	147 b	96	19.9 a	20.1 a
	11果	555	152	177 ab	94	19.7 a	20.1 a
	15果	524	159	191 a	95	18.7 ab	19.4 ab
	19果	513	156	192 a	94	17.5 b	18.4 b
2016	11果	467 ns	118 ns	191 ns	95	18.1 a	18.4 a
	15果	487	123	192	94	17.2 ab	17.7 ab
	19果	482	122	201	94	16.1 b	16.6 b

z : 2月末までの収量, y : (商品果収量/総収量)\*100, x : 総収量/総収穫果数, w : 商品果収量/商品果数,  
v : 同列, 同年のアルファベット異文字間には, Tukey の検定により 5% レベルで有意差あり. ns は有意差なし.  
2014年, 2015年 n=10株\*3反復, 2016年 n=8株\*4反復

表2 「ゆめのか」暗黒低温処理栽培における頂花房着果数と頂花房および第1次腋花房頂果平均収穫開始日

頂花房着果数	頂果平均収穫開始日 <sup>z</sup>					
	2014年		2015年		2016年	
	頂花房	第1次腋花房	頂花房	第1次腋花房 <sup>y</sup>	頂花房	第1次腋花房
7果	11月21日±4	2月13日±4	11月19日±2	-	-	-
11果	11月19日±2	2月16日±4	11月21日±3	-	11月18日±1	2月17日±3
15果	11月22日±4	2月26日±6	11月19日±2	-	11月18日±1	2月24日±4
19果	11月20日±4	2月26日±5	11月19日±2	-	11月18日±1	2月28日±6

z : ±は 95%信頼区間の幅, y : 不受精果多発のためデータなし

## [その他]

研究課題名 : イチゴ次期有望品「ゆめのか」の安定生産技術の確立、単収日本一を目指したイチゴ「ゆめのか」の増収技術開発

予算区分 : 県単

研究期間 : 2013～2015年度、2016～2018年度

研究担当者 : 野田和也、前田衡、松本尚之